

トップメッセージ



「高い志」と「広い視野」を持って 環境改善に貢献

私は社長に就任以来、社員に「高い志」をいつも意識し、自らの行動の原動力とすることを一貫して訴えてきました。「高い志」があればさまざまな問題意識を持ち、自らの部門の枠を超え、全体最適を目指すことができると思います。現状と目標のギャップを認識し、そのギャップを問題としてとらえ克服することが、生活や仕事の原動力になると確信しています。

また、事業のグローバル化が急速に進行していますが、世界一流のものづくりを実現するには、海外展開に適応した人の養成や仕事の仕組みを再考する必要があります。日本から世界を見るのではなく、宇宙ステーションから世界を眺めるような「広い視野」を養い、従来の枠にとらわれず幅広い発想で取り組むことが海外展開には不可欠と考えます。

この「高い志」と「広い視野」は地球環境問題への対応に際しても重要なスタンスであると思います。

2008年7月の主要国首脳会議(洞爺湖サミット)では、2050年までに温暖化ガスを半減する目標を各国と共有し、G8では野心的な中期国別総量目標を設定することを首脳宣言で明らかにしました。この宣言を受け、私たちも「高い志」と「広い視野」で、提起された課題を直視しそれぞれの現場で取り組む必要があることを再認識しました。

多種多様な金属資源を分離・回収し、再資源化

三井金属グループは製錬事業を運営し、電力やコークスなどのエネルギーを多く使用していますので、二酸化炭素など温暖化ガスの排出による気候変動は重要な問題であると認識しています。製錬・素材部門は三井金属グループの排出する二酸化炭素の8割を占めているため、省エネ型設備への転換など省エネ対策を精力的に進めています。その結果、製錬部門の地金重量当たりの排出量は着実に減少してきています。

また、昨今、資源の高騰が世界的に大きな問題となっています。三井金属グループは、日本全国に7つの製錬所を有しており、各製錬所における銅・鉛・亜鉛・貴金属製錬それぞれの特徴を活かし、グループ内トータルでのリサイクルシステムを築き上げることによって多種多様な金属資源を分離・回収し、再資源化しています。環境・リサイクル事業では、製錬事業の設備を活かして非鉄金属のリサイクルを推進するほか、土壌環境調査や重金属汚染土壌の浄化などを手掛けています。

環境汚染防止に役立つ事業としては、排気ガス用自動車触媒があげられます。近年、排気ガスによる大気汚染は大きな社会問題化しています。しかし途上国における急速なモータリゼーションの波が衰えることは予想できません。そのため、排気ガス規制も一段と強化されてきている中、排気ガスをクリーン化する触媒はますます注目度を上げています。三井金属では、すでに日本、タイ、インドに触媒事業の拠点を置き、2007年10月からは中国での操業を開始しました。

このように、三井金属グループは生産過程での環境負荷を削減するとともに、本業である事業を通じて社会の環境負荷を削減することに今後も注力していきたいと考えます。

潜在的なパワーを引き出すのが私の責任

現在、2015年に三井金属グループはどのようなグループでありたいか、理想像を追求しています。そして、その理想像の達成に向けて2009年度から始まる中期経営計画を策定しますが、三井金属グループがさらに飛躍するために5つのテーマを掲げて深掘りしています。それらは、①ものづくりの抜本強化 ②事業ポートフォリオの組み換え ③経営システムの変革 ④組織の変革 ⑤ひとづくり です。この5テーマを着実に実践することによって、今後の事業の成長性に大きな可能性が生まれるとともに環境保全への貢献など、企業の社会的責任を十分に果たすことができると思います。

社長に就任して以来、多くの社員と対話を重ねてきました。その中で、三井金属グループの人材の質が高いことにも改めて目を開かされました。5つのテーマを着実に実践していくためにも、その潜在的なパワーをフルに引き出していくのが私の責任であると考えています。

本報告書は、環境保全への取り組みをまとめたものですが、今後の環境対応に対する取り組みにつきましても、皆様方から忌憚のないご意見、ご感想をいただければ幸いです。

代表取締役社長 兼 CEO 兼 COO

竹林義孝